

羽村市図書館協議会臨時会会議録

1 日 時	平成 26 年 1 1 月 1 1 日(火) 午後 2 時～午後 4 時
2 場 所	羽村市図書館 2 階ボランティア室
3 出席者	【会長】塚原 博 【副会長】関澤 和代 【委員】野元弘幸、磯嶋 健、中田 国雄、海東朝美、愛甲慎二、 石川 千寿
4 欠席者	【委員】大庭 正宏、若松 仁
5 議 題	(1) 分室・図書室の今後の運営について (2) その他
6 傍聴者	なし
7 配布資料	① 次第 ② 登録分布図 ③ 代替施設について

協議会

【会長】本日は特別な開催ということで、お忙しいところ、お集まりいただき雨の中ありがとうございます。今日、臨時会ということで図書館分室のあり方ということですが、図書館全体の拡大も考えながら、特に図書館分室のことを含めて考えていきたいと思います。それで、12月中に事務局の方では案を作って来年度から実施を計画しているものですので、今日会議が終わりましたらそのまとめをします。11月いっぱいくらいに素案というか原案を作りまして12月5日までに最終案をまとめるような形でスケジュールを進めていきたいと思います。

今日、前回登録分布図の作成をお願いしました。それからいままでお話をくださった中でそれぞれの施設についてのメリットデメリットを図書館でまとめてくださいました。それから羽村市の登録分布図ですね。それぞれの地域に何人登録していて全体の何パーセントかということと、それから広域利用集計や貸出冊数ですね。これは羽村市とほかの関係がわかるものがあります。もう一つ平成26年度10月度ということで利用統計の月報というものが3枚あります。そこで1日から始まった、それぞれ加美分室、富士見平分室、川崎分室、小作台図書室、それから全体の総合ということですね。そういう形で毎日開いている日とその利用、入館者数が書いてありますので、参考にして話し合いの叩き台の資料としたいと思います。もう一つ前回の会議の時に、事務局の方にお聞きしたいのですが、分室の職員の方へのアンケートというかヒヤリングの結果はいかがですか。今日の資料のご説明もお願いします。

【事務局】前回の時に宿題としていただいたもので資料を用意させていただいております。図面に羽村の全図に落としていますのが登録者数ということで見ていただきたいと思います。各分室の直近の利用者の統計ということで、このような数字となっています。各分室が加美、富士見平、川崎とございますが、今分室に置かましては臨時職員が3名、それを開館日2名態勢で回しています。そういった中で実際の現場に携わっている職員の話を書きましたところ、人数的には月報を見ていただく通りの数で、全く来ないという日もあるということと、子供さんが一人で来るケースもあれば、幼児が親御さんと来るというケースもありますということですが、全体的に各分室としてもやはりあまり人は入っていないということで、大体普段ですと3~4人、多い時で夏場でも10人くらいかということでございます。小作台分室につきましては別でして、ここにあるような数字ですので、小作については一般の方に利用も多くあるかなという印象です。それから、もう一つの参考資料としての貸出冊数ということで、これは広域の各市町村の状況を載っております。本館は別としましても各分室についてはほぼ市内の方の利用が多い状況

ではありますが、小作台図書室については青梅と隣接していることもありまして、青梅市の方の利用もかなりございます。それから前回にいただきました富士見平分室の代替施設として富士見農協、JA西多摩の富士見平支店があったところが今空いているということでご意見をいただきました。それにつきまして、農協の総務部長に確認をしましたところ、現在倉庫として使用しているということで、貸出は全くできないということではないが、現状すぐに市から話があっても貸せる状況ではないということでした。一つの選択肢としては考えられるのかなと思います。もう一点、マミーショッピングセンターという地域のショッピングセンターがございます。空き施設があれば入れないかという意見を他からもいただきましたので、そのあたりも確認していかななくてはいけないと考えています。もし委員の方の意見をいただけるようなことがありましたら、お願いできればと思っております。

【会長】事務局からご報告いただきました。この全体の登録について見ますと、全体の登録率は市全体としては何パーセントくらいですか。

【事務局】50%はないと思います。

【会長】登録者数は28,229人ですね。

【事務局】それは全体の登録者数なので、市外の方の数を引かなくてはいけません。30%くらいだと思います。

【会長】地域別に見ますと、緑ヶ丘が11%ですね。神明台が11.6%でここが一番多いですね。緑ヶ丘と神明台が多いです。それから次は6%台で小作台、五ノ神、栄町ですね。5%台は富士見台でここは6%近いです。それから羽加美ですね。あと羽中、羽東が4%台です。あとは3%台ということで、分室の近くを見ますと川崎が2.4%、上から言うと小作台が6%台、加美のところは羽加美ということで5%台、川崎分室は2%台といった登録率となります。ですから、駅の東側、図書館本館がある側は利用が比較的高くなっています。それに比べると西側は比較的小さいという傾向にあると思います。

それで、以前に答申等に出した一つの考え方ですが、羽村市図書館のサービスの向上をどう計るかというところで、登録率で少なくとも世帯に一人は利用するというので、40%台が一つの目標となっていて、まだここまで行っていないということですからこれに近づけるような内容を全体的に考えていかなければいけないと思います。

前にお渡しした資料で望ましい基準が新しく出ました。羽村市と同じような人口規模のところを見てみますと2.3館あって移動図書館があるという形です。これは一つの目標となります。

それからもう一つ全体的な考え方ですが、一般的に図書館の施設配置を考え

るときにサービスポイントをどこに置くかということですが、大人が歩いて10分くらいで着けるところ、距離で言うと半径700m位ですね。そこに図書館が一つあるという形です。それから人口2万人に1館という考え方や、小学校2校に1館あるという指標が出されています。実際に東京都の図書館政策が1970年に出た時には700m圏内に一つの図書館という構想で補助金を出しています。調布市は小学校2校に一つ図書館を作るという政策で今配置しています。最近はあまり言われなくなりましたが。そういったことから配置を考えるのも一つあります。それから現実問題として、川崎分室や富士見平分室がかなり老朽化しているということがあります。また、小作台、加美分室についてもほかの施設を借りているということがあります。全体的に図書館の施設配置をどうするかという問題があったということと、事業仕分けの中で小作台は継続するが、ほかの分室は廃止の方向でやっていると出しています。

今までの案が出ておりますが、今日、分室の資料が出てきましたのでどの程度利用があるかはっきりわかってくる形になっています。他市町村からの利用があるのは本館と小作台図書室ということで、加美分室、富士見平分室、川崎分室はないということです。

【委員】微妙な数字ですね。

【事務局】ちょっとよろしいですか。補足で利用統計の10月分をお配りしていますが、大体通常の月の数だと思います。夏休みはどうかということですが、口頭で申し上げますが、平均の日数で申し上げます。加美平分室は11.2人です。富士見平分室は5.4人です。夏でもあまり変わりません。川崎分室は3.9人です。小作台図書室は42.7人です。小作台図書室については、8月は早朝開館ということで午前10時から開館しています。通常は午後1時からです。その影響もあるかと思えます。

【委員】8月の開館日数はどのくらいですか。

【事務局】大体同じくらいです。分室は変わらないです。基本的には月曜日、木曜日、土曜日が休室です。小作台は月曜部と祝日が休室です。

【会長】そうすると、加美分室の場合は夏休みは通常の1.4倍の利用増があります。富士見平分室は1.04倍、川崎分室は1.2倍、小作台図書室は1.6倍となっています。富士見平分室はほとんど変わらないですね。富士見平の登録率は6%近いですね。

【委員】マミーショッピングのところに作れば、今より行きやすくなるのではないのでしょうか。商店街といえども、商店は半分くらいしかないですから。

【事務局】一つ活性化の意味もありますね。今羽村団地自体の高齢化が進んでしまっていることがあります。空き部屋もあると聞いています。

【会長】将来的には羽村団地はどうなりますか。

【事務局】羽村団地は公団の物ですので、どうなるかはわかりません。ただ作りが階段はきついしお年寄りには高層階はつらいと思います。公団最中をリフォームしたりして若い世代に貸そうと施策を打っていますが、立地的なものもあるのかそれほどではないようです。

【委員】五階建てでエレベーターもついていません。

【事務局】近くであれば、農協かマミーショッピングあたりになるかと思えます。

【会長】富士見平はその方向でいかがでしょう。

【委員】双葉町も網羅する形であると良いです。

【会長】川崎分室は児童館も近くになく、小学校も今のところなかなか使えないとなると難しいですね。ここが一番難しいです。現在の西多摩農協のところが将来的に利用できればそれがベストだと思います。まずはそれが一案かと思えます。

【委員】小作台図書室は立ち退かなくてはいけないですよ。ここの利用率がこんなに高いのになくすことはできないでしょう。

【事務局】小作台図書室は需要があるので別に考えるというのが事業仕分けの意見です。小作台図書室が立ち退かなくてはいけない理由は市側の目的外使用の面と町内会の開館利用の面があります。ですので、現在の機能を有して半径500mの中で考えないといけないと思えます。

【委員】分室というより分館になると思えます。子供がふらっと立ち寄れるということはなくなってしまうとおもいます。目的が違ってくると思えます。川崎分室や加美分室の利用率を考えると、西多摩農協のところに作ると利用率が上がると思えます。なくすというより、場所を移して利用率を上げると言った方が良いのではないかと思います。

【会長】小作台の場合は近くに空き地がありますね。その空き地や公園に建てる案でも良いわけですよ。

【事務局】公園の中は難しいと思えます。

【会長】小作台図書室は代替案とかを考えることが難しいですね。500m圏内に作ってくださいといった案でも良いですか。

【事務局】良いと思えます。小作台については需要もありますし、必要性は高いというのは認められていますので、移転の際には民間の施設を利用するなどして確保する必要があるということで良いかと思えます。公園と書いていただいても構わないですが、市有地があつて建設が可能ならばといった形がよろしいかと思えます。公園となると難しいと思えます。市営住宅用地として取得していたものが制限がなくなったので、現在地域の災害時の緊急避

難地として簡単な公園として確保しておくことになっています。

【委員】分室の廃止案について、老朽化と利用率の問題が出たのですけれど、各分室の老朽化に対しては取り壊して、もしくは改築して新たに再現するということはできるのでしょうか。老朽化によって分室を廃止しなさいという意味が分からないのですが。再構築では対応できないのでしょうか。

【事務局】全くあり得ない話ではないですが、事業仕分けの中の一つの理由が老朽化であるというのと、利用率がありましたので、建て替えて新たなものを作ったとして、利用率は上がるのかということがあります。

【委員】もし建て替えて新しくするということが可能であれば、あとは利用者数の増加については積極的に利用者増について取り組むということで具体例を挙げてではいかがでしょうか。

【事務局】建て替えて利用率を高めるということは、今のような児童書だけではなく、それなりの建物を建てて、今の小作台図書室と同じくらいの機能を持ったものを建て替えるということであれば可能だと思います。

【委員】増加になるような規模も大きくしてはどうかと思います。

【事務局】おっしゃる通り一般書も置いて地域の図書館として利用率を高めるというのは一つの策としては考えられることだと思います。ですが、耐震などを考えますとプレハブというわけにはいかず、今の用地に2階建てなどを建てることを考えると費用負担が大きいと思います。

【委員】予算の面で言えば色々なアプローチの仕方があるのではないのでしょうか。

【委員】統計を見てみると、利用率の問題が出ていますが、小作台の皆さんが利用に積極的なわけではなく、きちんと小作台図書室規模の分館を設置すればこれだけに利用が見込めるということですよ。老朽化と利用率の低下による廃止というやや消極的な考えではなく、これを機に小作台図書室と同じように700mから800mくらいに大人も利用できる図書も充実したものを作っていくという考えもあるかなと思います。

【事務局】今の富士見平分室や川崎分室のそのままの機能のままで建て替えるということは困難だと思います。

【委員】時間的にも先の見通しはまだつかないので不透明な話になりますね。その提案を投げかかるのはいかがですか。

【事務局】借地ですので相続などが発生したり返還を求められることがないとは限りません。仮に今のところで2階建ての分館を建て替えて一般書も置くといったことも一つの方法としては可能だとは思いますが、色々な課題が背景にはあります。富士見平分室は無償で提供してくれていますので、月々の管理費だけ支払っているだけです。

【委員】現実的な具体的な提案をしなければいけないと思いますが、そのあいまいな提案で仕方がないのでしょうか。

【事務局】わかりません。

【委員】具体性と現実性がないと提案にならないと思うのですが。

【事務局】おっしゃる通りだと思います。そこが難しいところだと思います。

【事務局】川崎分室を新たに建て替えてという方法も一つかもしれません。

【会長】それを入れてもいいですね。

【事務局】小作台図書室と同じような機能を持った分室を建て替え、そういったことで地域の利用度が高まるといったことです。

【会長】両方書いてもいいですね。川崎分室の土地に小作台図書室の規模の物を建てることは可能ですか。

【事務局】2階建てにするようになると思います。場所的には土地の形状はあまりよくないです。

【委員】駐車場もなければいけません。

【事務局】何とかスペースをとれるかもしれません。

【委員】小作台図書室も駐車場は2台分ですね。

【事務局】地域の会館ですので駐車場はあるのかと。

【委員】具体的にどうなるか予想できませんね。ただ、分室が廃止との意見が出てそのまま了承するのではなく、子どもの居場所ということも大切な問題ですので、どういう形にしる存続することの希望を出したいです。

それとハードとソフトは一緒に考えていかななくてはいけないので、建物だけでなくソフト面も挙げていく必要があると思います。例えばレファレンスの能力を上げるとかいったことも必要ではないかと思います。

【会長】立替とか大体で作る場合もそこにどういう機能を上げていくか、サービスの向上をしていくかといったあたり、中身をどうするかも必要ですね。職員の配置も出てきますね。過去に保谷市は児童館などを地域の図書館機能を持たせて、そこに本館から午前中1名準備に行き、あと午後になってもう1名職員が行くといった形で運営していました。羽村の場合は臨時職員で運営しているわけで、司書を配置して本の案内やレファレンスの機能を強化していくことも考えていく必要があります。人員配置をどうしていくかといったことも出てきます。今の小作台図書室の配置はどうなっていますか。

【事務局】現在4名を配置して、1日2名態勢で回しています。火曜日から土曜日が午後1時から5時まで、日曜日が午前10時から午後5時まで毎日開室しています。火、水、金、土曜日の午後1時から5時までです。

【会長】本館の臨時職員と雇用形態は違いますか。

【事務局】同じです。配属先は分室でも本館に勤務してもらおうときもありま

す。

【会長】方法としてはそれは良いですね。募集するときに分室なりに配属するという形で周知するのですか。

【事務局】募集の時は一括して募集しています。その中で住まいが近い方などに打診をして配属する形をとっています。

【委員】例えば小作台図書室の臨時職員の方が本館に勤務した時に本館の本の様子とか新刊書の様子を見てくると、図書室に帰って来館者へ直接情報を伝えられるのが良いと思います。

【会長】全体的にサービスや利用度を上げるという方向で書くということになります。その場合に分室を新しく考えていくという観点で考えていくことになります。小作台図書室は継続ですね。利用度も高いし要望もありますから。小作台図書室から半径 500m以内に代替施設を見つけてそこに移転するとします。羽村駅の西側に分館ができれば、川崎分室や加美分室の利用者を吸収できます。できない場合は川崎分室の場所に使用度を上げるために規模を大きくして大人も含めた施設を作り、さらに貸出中心だけではなく読書案内やレファレンス、お話を強化していくといった形で位置づけていってはどうかと思います。富士見平分室については、先ほどから話に出ている農協の後施設とかマミーショッピングセンターや団地の中に移すということができれば。

【事務局】できると思います。農協ならスペースとしては児童書だけでなく一部一般書も置けると思います。例えば、マミーショッピングセンターに入るとか富士見の農協の後施設に入るといった考え方のスペースとしては一般書も置いて利用度を高めるということを考えています。もしそのままの機能のまま移すというのであれば、児童館にと考えています。代替で作るとかどこかに入るというのであれば、やはり利用度を高めるというのが目的になってくると思います。

【委員】マミーショッピングセンターの場合には建設してから 30～40 年経ていますので早晚同様の老朽化の問題が出てくると思います。

【会長】先ほどの富士見平の農協の跡に入れば双葉町の人も吸収して利用してもらい可能性も出てきます。川崎と羽西と双葉町は登録率が 2～3%台で低いとなっています。羽西は利用しにくいですか。小作台分室に行きますか。

【委員】この登録率は、登録者全体における割合ですよ。

【事務局】その通りです。

【委員】川崎は今、人口が減っています。昔はたくさんいたと思いますが。

【会長】そうすると地域の人口から登録率を出した方が分かりやすかったかもしれません。



【委員】川崎分室がなぜこの場所にあるのか考えていたのですが、おそらく旧川崎村のつながりがあったので、この場所に設置されたのではないかと思います。川崎分室はいつごろで来たのですか。

【事務局】昭和57年です。児童書を中心に開室しています。

【委員】その頃は川崎地区も人数がたくさんいたと思います。川崎、神明台、双葉町あたりが旧川崎村なので、そう考えると、神明台1丁目あたりでも良いのではないかと思います。そうすれば神明台は人口も多いですし、利用の増加も見込めるのではないかと思います。

【会長】元々子供文庫がありましたね。民間の人たちが地域の子どものために読書施設がほしいということで、ミニ図書館のようなものを作っていました。3~5畳くらいのところに、自分で本を買ったりして、近所の子どもたちに読んでもらうという活動が、羽村の場合いくつかありました。その中から川崎分室や加美分室を市として地域の図書館を作ったということがあります。有志の人たちがそのあたりに子供文庫を作っていたというのがあって児童書が多くなっています。

【委員】加美分室はそうですね。

【委員】線路を越して行くというのは、東小の子供たちはできるのかということが問題ですね。行っていいものかどうか。学区外です。

【会長】加美分室の大きさは良いですね。子供の利用だけであれば。

【委員】立地条件は、通学路にあるので子供がたくさん通ります。

【委員】ルーテル幼稚園の隣のおおぞら保育園の土地はどうでしょうか。

【事務局】東京都の教員住宅跡地ですね。

【委員】園舎の建物を使うとは言いませんが、あの土地は良いと思います。

【事務局】区画整理地区内です。そこは問題かと思えます。

【委員】川崎分室は区画整理地区内ではないですか。

【事務局】外れています。

【会長】全体としてみますと、本館があって、小作台図書室が残るとして、羽村駅の西側に一つできるとしまして、あと富士見平のあたりに一つあると、全体の地域的にかなりサービスが提供できるかなと思います。

【会長】書店のあるところに図書館が入ると相乗効果があります。調査研究結果が出ています。多摩市立の図書館は聖蹟桜ヶ丘に図書館と書店がビルに入っています。清瀬市も駅のところに大型商業施設があってそこに書店と図書館が入っています。

【委員】河辺の図書館も書店が別棟ではありますが近くにに入っていますね。

【会長】書店は売れないといいますが、逆に売れます。書店と図書館ではおいてある種類が違います。一般的に書店は3~4ヶ月くらいの新しい本を置

いています。長期においているものも少なくはないですが、図書館はむしろ古い本を置いています。置いてある本自体が違います。機能が違うと言えます。新しい本は競合してしまいますが。

【委員】明るさや広さから考えたら、利用者にとっては良いことだと思います。

【会長】最終的な姿としまして、羽村駅の西側に小作台図書室規模のものを配置してほしい。富士見平のところは先ほど来でているようにその近辺に民間の建物なりに入るか公的なものを作って小作台規模にしていきたい、というような形でいかがでしょうか。駅の西側にできない場合は川崎分室を増改築して機能を向上させるということはいかがでしょうか。

【委員】分室によって対応を考えていくということですね。

【会長】その通りです。

副【会長】今まで分室は児童書だけでしたがこれから考えていくのは小作台図書室のような一般書も一緒に置くような、レベルアップしたものということですね。

【会長】その通りです。開館時間も小作台図書室と同じようにしたいですね。

副【会長】その考え方でいきますと、今まで分室に来ていた子供たちはどうするかというと、学校図書館になりますか。

【会長】そうではなくて、例えば駅の西側にできれば、川崎分室を利用していた子供たちは駅までの導線上にありますので、そこを利用する形になります。

副【会長】加美分室に来ていた子供たちは遠くなってしまいます。小作台図書室も小さい子供たちには遠いのでいけないですね。

【会長】そこは難しいですね。

副【会長】西小学校の図書室を充実して、そことなるのでしょうか。

【委員】本当に分室のことは難しい問題だと思っています。代案としては子供対象ということであれば、児童書を中心とした図書室で今までの分室と同じようにというのであれば、児童館が使いやすいかと思います。そうすると川崎分室の代案をどうするかということになると、適切な場所が思い浮かびません。他の分室にしても一般書も追加してのリニューアルを考えているのであれば、児童館も適した場所ではないと思います。そうすると、どこでとなると難しい問題だだと思います。分室がなくなるとして、その後きちんとしたものができるのか考えた時に、できないのであれば今の分室を維持していくことを考えた方が良いのではないかと思います。

【会長】小作台図書室や加美分室が現状維持でできればそれが良いと思います。

【委員】分室の建て替えや移動などをやるとしたら一度にやるのか、一つずつやるのか、どのように対応していくのでしょうか。

【事務局】一度にとというのは難しいでしょう。どこが一番ひっ迫しているかというとならないと思います。小作台図書室にしても、背景に事情がありますのでいずれは移動しなければいけない、その代替えを考えなくてはいけないと思います。小作台西会館を出るとなると加美分室にも波及してくるでしょうから、同じように考えなければいけません。富士見平分室と川崎分室は同じ状況です。一度にとというわけにはいきませんので、長いスパンで計画していく必要があります。加美分室はどうするかという問題は出てくるとは思います。加美分室と小作台図書室は地域の会館としての利用度は小作台図書室の方が1階の良いスペースを使ってしまっていますので、お年寄りが利用するとなると2回を使うのが不便だと言われています。加美分室の場合はそうではなく、奥にありますのでさほど町内会も言ってきていません。現時点では加美分室は考えなくても良いかもしれません。他の分室に比べて、通学路にもありますし、利用度が少し高くなっています。反対に川崎分室や富士見平分室は通学路ではないので、わかっていて本が好きなお子孫が使うという形になっています。教員住宅の跡地にある程度のもので建てられるのであれば、利用度も高くなるかもしれません。学校にも駅にも近くなりますので。

分室については児童生徒の読書活動を推進するということが根底にあります。西側は高齢化が進んでいると思います。ですので、線路を渡って本館まで来るといのはかなりな負担だと思います。そういったところでも、西多摩農協に返却のブックポストを置いています。毎日のように利用があります。だいたい年配の方が利用されているようです。反対に双葉町の方にある三ツ矢会館連絡所にブックポストを置いています。利用は少ないです。そういったところからも、双葉町や神明台、川崎の利用は少ないのかなと思います。

【会長】その二つを押しえられると良いですね。具体的に示すというのはなかなか限界があります。小作台図書室と加美分室は近くに設置する。川崎分室は駅の西側にできない場合は、増改築や教員住宅跡地に設置するなど可能性のあることを書き入れて提出します。今まで案が出ていますので、全体的なバランスを考えて意見を出していきたいと思います。

【委員】時間的な見通しはどのくらいですか。それも含めて提案しますか。

【事務局】いろいろな選択肢があると思います。それが担保できるようになって来れば具体的な計画を立てることになると思いますが、今の見通しとしては今後3年くらいだと思います。望ましい方向性を示していただければと思います。

【会長】川崎分室と富士見平分室が老朽化が問題となっていますね。

【事務局】老朽化は以前から言われています。本棚の固定やクーラーの固定をしていますが、決定的な問題は出ていません。移転するにしても富士見農協の跡にしてもマミーショッピングセンターにしても古い建物ですので、市として借りるかという問題もあります。

【会長】答申を 2 回出していますが、分室は拡張し耐震対策もするようにしていますので、その方向で、廃止するのではなく代替でという形を出したいと思います。

